



心臓財団 季報

No.207

● 公益財団法人日本心臓財団 ●

〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 4階

○ Tel 03-5324-0810 ○ Fax 03-5324-0822 ○ e-mail:info@jhf.or.jp ○ http://www.jhf.or.jp/

JUNE 10, 2012

平成24年度 日本心臓財団事業計画

～第61回評議員会・第122回理事会にて決定～

3月6日、東京の学士会館にて第61回評議員会・第122回理事会が開催され、平成24年度事業計画、収支予算について審議し、評議員会において承認され、理事会において可決しました。事業概要は以下のとおりです。

なお、当財団は4月1日より公益財団法人としての認定を受け、今までの事業を継続しつつ、わが国の心臓病研究および予防啓発について、さらなる精進をして参りますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

I. 個人研究に対する助成事業

1. 第38回日本心臓財団研究奨励の実施
2. 第3回日本心臓財団入澤宏・彩記念研究奨励の実施
3. 第3回日本心臓財団入澤宏・彩記念女性研究奨励の実施
4. 第10回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)の実施
5. 第10回日本心臓財団・アステラス・ファイザー動脈硬化Update研究助成の実施
6. 第8回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成の実施
7. 第1回日本心臓財団・日循協・アストラゼネカ臨床疫学研究助成の実施

II. 研究者の留学費用に対する助成事業

1. 第26回日本心臓財団・バイエル薬品海外留学助成の実施
2. 東京海上日動火災保険(株)による海外研究者研修助成の実施
3. 第6回日本心臓財団Cardiac Rhythm Management短期海外研修助成の実施

III. 学会および研究会に対する助成事業

1. 公募助成
 - 1) PCI Technical Education Course
 - 2) 第18回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
 - 3) TOPIC 2012
 - 4) 第60回日本心臓病学会学術集会
 - 5) その他、理事会で承認された循環器関連学会
2. 指定助成・共催
 - 1) 第34回美甘レクチャー(日本循環器学会特別招待講演)
 - 2) 第25回日本循環器病予防セミナー

IV. 共同臨床研究等に対する助成事業

1. 虚血性心疾患に関する研究
2. 虚血性心疾患と脂質低下療法に関する研究
3. 突然死に関する研究
4. 心房細動に関する研究
5. 慢性心不全に関する研究

6. 急性心不全に関する研究
7. 弁膜症に関する研究
8. 高血圧に関する研究
9. 肺高血圧に関する研究
10. 糖尿病と心血管病に関する研究
11. 睡眠呼吸障害と心血管病に関する研究
12. 血栓症・塞栓症に関する研究
13. 心臓外科治療に関する研究など

V. 指定研究等の実施・助成事業

1. 生活習慣病改善プログラム
2. 予防医学のための携帯型心電計普及活動

VI. 個人または団体に対する褒賞事業

1. 第38回日本心臓財団佐藤賞の贈呈
2. 第37回日本心臓財団草野賞の贈呈
3. 第27回日本心臓財団予防賞の贈呈
4. 第8回日本心臓財団小林太刀夫賞の贈呈
5. 第17回日本心電学会学術奨励賞の後援

VII. 広報啓発事業

1. インターネット「心臓財団のホームページ」関連啓発活動
2. 日本循環器学会との協力事業
 - 1) 病院掲示用壁新聞ハートニュースの発行
 - 2) 市民公開講座の開催
3. 予防啓発小冊子の発行
4. 「ハートの日」活動
 - 1) 健康ハートの日
 - 2) ポスターの製作配布等
5. 禁煙推進活動
6. AED・心肺蘇生普及活動
7. 日本心臓財団メディアワークショップの開催
8. 患者団体・予防活動団体への協力
9. 日本川崎病研究センター事業への協力
10. トーアエイヨー(株)によるラジオNIKKEI「心臓財団虚血性心疾患セミナー」
11. 月刊誌「心臓」の発行
12. 機関紙の発行など

公益財団法人日本心臓財団 役員

平成24年4月1日より公益財団法人への移行に伴い、新公益法人制度のもと、平成23年3月28日開催の評議員会にて選任された理事、監事が移行後の役員に就任し、平成23年8月22日開催の最初の評議員選定委員会にて評議員の選任が行われました。平成23年5月23日の理事会で新理事の互選により、理事長、常任理事が選出されました。任期は平成24年4月1日より理事は平成24年度最終の評議員会最終時まで。監事および評議員は平成27年度最終の評議員会最終時まで。

2012年6月1日現在

◇ 理 事 ◇

代表理事(理事長)	矢崎義雄	国際医療福祉大学総長
代表理事(常任理事)	西川 章	三菱マテリアル株式会社名誉顧問
業務執行理事(常任理事)	北村惣一郎	国立循環器病研究センター名誉総長
業務執行理事(常任理事)	山口 徹	国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長
	今村 聡	社団法人日本医師会副会長
	栄木憲和	バイエル薬品株式会社会長
	小川 聡	国際医療福祉大学三田病院院長
	小野高史	東海旅客鉄道株式会社顧問
	児玉逸雄	名古屋大学名誉教授
	児玉安司	弁護士・三宅坂総合法律事務所
	庄田 隆	第一三共株式会社会長
	永井良三	自治医科大学学長
	樋口公啓	東京海上日動火災保険株式会社相談役
	森 健一	東京理科大学総合科学技術経営研究科教授
	横出正之	京都大学医学部附属病院探索医療臨床部教授

◇ 監 事 ◇

石尾 肇	公認会計士・石尾公認会計士事務所
上松瀬勝男	医療法人社団冠心会大崎病院東京ハートセンター病院長

◇ 評 議 員 ◇

和泉 徹	北里大学医学部循環器内科学教授
岩沙弘道	三井不動産株式会社会長
上島弘嗣	滋賀医科大学生活習慣病予防センター特任教授
荻野和郎	日本光電工業株式会社会長
小柳 仁	東京女子医科大学名誉教授
金野秀美	トーアエイヨー株式会社常務取締役
佐々木 讓	株式会社アクセル社長
白土邦男	東北大学名誉教授
高木 茂	三菱地所株式会社相談役
鄭 忠和	獨協医科大学特任教授・和温療法研究所所長
豊沢泰人	ファイザー株式会社経営政策管理本部長
中岡一郎	武田薬品工業株式会社医薬開発本部日本開発センター所長
平岡昌和	厚生労働省労働保険審査会会長
藤原久義	兵庫県立尼崎病院院長
堀 正二	大阪府立成人病センター総長
百村伸一	自治医科大学附属さいたま医療センター総合医学第一教授
山田活郎	アステラス製薬株式会社上席執行役員

◇ 顧 問 ◇

尾前照雄	国立循環器病研究センター名誉総長
河合忠一	京都大学名誉教授
川島康生	国立循環器病研究センター名誉総長
篠山重威	同志社大学工学部心臓バイオメカニクスセンター教授
志立託爾	三菱 UFJ 信託銀行株式会社名誉顧問
末松謙一	株式会社三井住友銀行名誉顧問
杉本恒明	公立学校共済組合関東中央病院名誉院長
外山淳治	医療法人澄心会名古屋ハートセンター総長
細田瑳一	公益財団法人日本心臓血圧研究振興会理事長
山口武典	国立循環器病研究センター名誉総長
山田和生	名古屋大学名誉教授
横倉義武	社団法人日本医師会会長

第8回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成対象研究者決定

当財団では、ノバルティスファーマ株式会社の協力のもとに、循環器領域における分子細胞生物学的研究の進歩に著しい貢献が期待される40歳以下の少壮研究者育成のため、第8回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成を実施いたしました。

本研究助成に53名より応募があり、3月17日に選考委員会が開催され、下記の10名が助成対象者に決定しました。助成金額はそれぞれ100万円です。

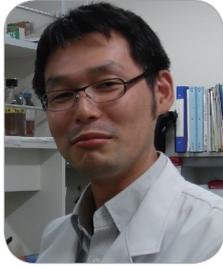
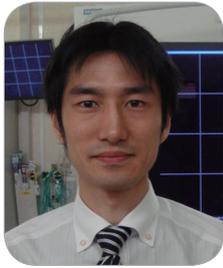
選考委員(五十音順・敬称略)

委員長	永井 良三	東京大学大学院医学系研究科循環器内科学教授
委員	伊藤 宏	秋田大学医学部循環器内科学教授
	北風 政史	国立循環器病研究センター心臓血管内科部門部長
	倉林 正彦	群馬大学大学院医学系研究科臓器病態内科学教授
	小室 一成	大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学教授
	斎藤 能彦	奈良県立医科大学第一内科学教授
	砂川 賢二	九州大学大学院医学研究院循環器内科学教授
	筒井 裕之	北海道大学大学院医学研究科循環器内科学教授
	室原 豊明	名古屋大学大学院医学系研究科器官制御内科学教授
	森下 竜一	大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学教授

助成対象者

(五十音順・敬称略)

氏名・所属	研究課題
 <p>有田 陽(36歳) 大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学 大学院生</p>	<p>Angiopietin-1による冠血管形成の制御機構</p> <p>生活習慣の欧米化により本邦でも虚血性心疾患は増加傾向で、特に心不全の合併する心筋梗塞症例が増加している。その予後改善には梗塞後の冠血管新生を効率的に進める新規治療法の開発が必要であり、そのためには冠血管の形成過程とその制御機構の詳細な解明が必要である。冠血管内皮の起源は右心房に隣接する静脈洞と言われているが冠血管内皮を遊走・進入させる分子機構は不明であった。我々は心筋特異的Angiopietin-1(Ang1)欠損マウスを作成して、Ang1が冠静脈の形成に必須であることを明らかにした。本研究は心筋から分泌されるAng1の冠血管形成における役割を解明し、冠動脈・冠静脈の特異化に焦点をあてた冠血管新生治療法の開発に道を拓くことを目的とする。</p>
 <p>家串 和真(37歳) 大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 特任助教</p>	<p>急性心筋梗塞に対する骨髄単核球細胞治療における心臓でのマイクロRNA発現調整機構</p> <p>細胞治療が急性心筋梗塞に対する治療の選択肢の一つとなってきている。その機序として、移植細胞から分泌された成長因子やサイトカインによる抗アポトーシス作用、血管新生、内因性幹細胞誘導作用などが報告されているが未だ十分とは言えない。マイクロRNAは転写因子に匹敵する新たな遺伝子発現制御機構として注目を集めており、様々な疾患形成に関与することが明らかになっている。そこで本研究の目的は、虚血心への細胞治療による内因性マイクロRNAの発現制御を検討することである。これらの検討から細胞治療の新たな機序、さらにはマイクロRNAを標的とした心血管系疾患の新たな治療法の開発への足がかりとなると考える。</p>
 <p>太田 嗣人(39歳) 金沢大学大学院医学系研究科恒常性制御学 助教</p>	<p>新規ケモカインシステムによるインスリン抵抗性の制御機構解明</p> <p>「飽食の時代」と云われて久しい現代社会では、肥満人口の急増に伴う糖尿病や脂質異常症、動脈硬化症の患者数増加はグローバルな社会問題となっています。私は、過栄養・肥満を背景とするこれらの生活習慣病に共通する病態である「炎症」と「インスリン抵抗性」がいかに疾患を発症、重症化させるのか、その複雑なメカニズムを解明するため、ケモカインとその受容体に着目しています。マクロファージ等の炎症細胞の浸潤・活性化を制御するケモカインシステムの病態形成における役割と意義をモデル動物を用いて明らかにし、メタボリックシンドロームや動脈硬化症の新たな創薬・臨床応用を目指したいと考えています。</p>
 <p>川村 晃久(39歳) 京都大学学際融合教育研究推進センター生命科学系 キャリアパス形成ユニット 特定助教</p>	<p>増殖因子シグナルを制御する人工受容体を用いた経済的かつ効率的な心筋再生療法の確立</p> <p>多能性幹細胞を用いた心筋再生療法が期待されています。Wnt分子や顆粒球コロニー刺激因子などの増殖因子は、心筋細胞分化促進効果や心筋保護作用などを有し、これらのシグナル伝達を制御することは、効率的な心筋細胞誘導だけでなく、移植後の生着効率の改善にも繋がると考えられます。しかし、増殖因子の生体投与は移植細胞以外にも作用するため、その副作用が懸念され、また、Wnt分子は、生体で安定して作用する組換え蛋白質が精製困難な状況です。本研究では、生体において安定でかつ毒性のない小分子リガンドに応答する人工受容体を用いて増殖因子のシグナル伝達を制御する方法を開発し、その細胞治療への応用を目指します。</p>

氏名・所属	研究課題
	<p>小坂橋 紀通(39歳) 群馬大学医学部附属病院循環器内科 助教</p> <p>病的心臓リモデリングにおける細胞特異的TGFβシグナリングの役割の解明</p> <p>TGFβやTNFαといったサイトカインが心臓リモデリングの病態にかかわっていることは以前から言われていたが、現時点で抗サイトカイン治療では、臨床的に心不全を改善することはできていない。細胞の種類によってサイトカインの役割は異なり、これが細胞実験中心の基礎データと臨床病態との乖離を生む。われわれはTGFβの中和抗体治療と心筋細胞特異的TGFβ受容体欠損マウスでは、心臓の病的リモデリングの形成が異なることを示した。本研究では細胞特異的遺伝子欠損マウスを用いて心臓肥大、心不全におけるTGFβシグナルの線維芽細胞と内皮細胞の役割を解明し、細胞特異的治療や創薬の可能性を検討する。</p>
	<p>佐々木 直人(37歳) 神戸大学医学部附属病院循環器内科 特定助教</p> <p>動脈硬化抑制における制御性T細胞の分子機序の解明と新規動脈硬化治療法の開発</p> <p>近年ますます増加している動脈硬化性疾患の発症機序を解明し、有効な治療法や予防法を開発することが切に望まれている。過剰な免疫応答を抑制する制御性T細胞/Regulatory T cell (Treg)が動脈硬化病変形成抑制において重要な役割を果たす可能性が示唆されている。本研究において、薬剤投与によりTregを特異的に減少させることのできる遺伝子組換えマウスを用いて、動脈硬化症の発生・進展における内在性のTregの役割の検討および抑制の分子機序の解明を行う。もしTregが本当に動脈硬化抑制に働くことが明らかになれば、Tregを誘導することにより動脈硬化を抑制するという方法は、新規の動脈硬化治療法になり得ると期待される。</p>
	<p>田浦 大輔(37歳) 京都大学大学院医学研究科内分泌代謝内科 特任研究員</p> <p>ヒトiPS細胞を用いた血管細胞分化過程の解析および動脈硬化病態解明への応用</p> <p>近年、ES細胞、さらには人工的に樹立されたiPS細胞を用いた再生医療研究が日進月歩で行われています。我々はヒトESおよびiPS細胞を用いてそれらを血管細胞に分化誘導し、血管細胞の分化機構、生理メカニズムを追求するという研究を行っています。さらには、先天的な遺伝子異常により血管障害を来す患者さんからiPS細胞を樹立させていただき、そのiPS細胞から血管を作製し、その機能的異常、遺伝子異常を観察することで、それら疾患の病理機構解明さらには新規治療法開発を目指しています。これらの研究は、生活習慣病など他の原因に起因する血管障害に対する診断や治療に関しても新たな発見をもたらすのでは、と期待しています。</p>
	<p>東邦 康智(34歳) 東京大学大学院医学系研究科循環器内科 助教</p> <p>心肥大の病態生理におけるNLRP3インフラマソームの役割及びその活性化機序の解明</p> <p>高血圧に伴う心肥大は心不全に至る予後不良の病態であり、その病態生理の解明と有効な治療法の開発が重要である。近年、生体自らが発する「危険シグナル」を病原体センサーが認識することで生じる炎症反応(自然炎症)が、様々な臓器障害に深く関与していることが示唆されている。NLRP3インフラマソームはそのような病原体センサーの一つである。本研究の目的は、心肥大の病態生理におけるこの病原体センサーの役割とその活性化機序を解明することである。本研究により、現在未知の「危険シグナル」を含む新たな治療標的を同定することで、心肥大に対する新たな治療法の開発を目指す。</p>
	<p>松原 純一(34歳) 熊本大学生命科学研究部循環器病態学 循環器臨床研究寄附講座 特任助教</p> <p>ジベプチルペプチダーゼ-4阻害剤の心血管系疾患への作用機序の解明と臨床効果の検討</p> <p>糖尿病は心血管イベント発症の大きなリスクであり、糖尿病における心血管イベント抑制を目的とする治療を検討することは臨床的ニーズが高い。このことから糖尿病治療薬として期待される薬剤が、動脈硬化に対してどのような効果を持つのかを明らかにすることは、臨床使用においても重要な指標となる。新規糖尿病治療薬であるジベプチルペプチダーゼ-4 (DPP4) 阻害剤を用いて、われわれ研究グループは動物モデル、細胞実験にて抗動脈硬化抑制効果、抗炎症効果を示している。さらに研究を進展させ、DPP4阻害剤の心血管系疾患における作用機序を解明することで動脈硬化への新たな臨床的治療戦略を提唱でき、さらに臨床効果の検討を行うことは大変意義があると考えている。</p>
	<p>湯浅 慎介(37歳) 慶應義塾大学医学部循環器内科 特任講師</p> <p>ヒトiPS細胞を用いた致死性循環器疾患の病態解明と治療方法の開発</p> <p>わが国の心臓突然死は年間3~5万人とされ、致死性循環器疾患を早期診断し、治療方法を確立することが急務である。iPS(人工多能性幹細胞)細胞が開発され、疾患解析・新規治療方法の開発が期待されている。iPS細胞はゲノムに記録されている遺伝情報を受け継いだ多能性幹細胞であり、患者由来iPS細胞を用いて患者の病気の表現型を引き継いだヒト心筋細胞を作製することが可能である。本研究では、致死性循環器疾患患者より、末梢血を採取しiPS細胞を作製し、心筋細胞へ分化誘導、表現型の解析、薬剤への反応を確認することで、病態解明と新規治療方法の開発とその臨床応用を行っていく。</p>

第1回日本心臓財団・日循協・アストラゼネカ 臨床疫学研究助成対象研究者決定

日本心臓財団と日本循環器管理研究協議会(日循協)は、アストラゼネカ株式会社の協力のもとに、医師、保健師、看護師、管理栄養士、栄養士、薬剤師等を対象に循環器疾患の予防に関する臨床疫学研究助成を本年度より実施することにしました。今回は全国より18件の応募があり、4月5日に選考委員会が開催され、下記の4名が選考されました。

研究期間は3年間です。

選考委員(敬称略)

委員長	和泉 徹	北里大学医学部循環器内科学教授
委員	上嶋 健治	京都大学大学院医学研究科EBM研究センター教授
(五十音順)	岡山 明	公益財団法人結核予防会第一健康相談所所長
	中村 好一	自治医科大学公衆衛生学教授
	山崎 力	東京大学医学部附属病院臨床研究支援センター教授

助成対象研究者

(五十音順・敬称略)

氏名・所属	研究課題	金額(万円)
 <p>浅井 貴絵(38歳) 駿河台日本大学病院循環器科 研究医員</p>	<p>上腕収縮期血圧左右差と血管内皮機能、動脈硬化、冠動脈虚血の関係</p>	80
<p>最近の研究により、上腕血圧の左右差が心血管疾患や死亡の指標として有用であることが報告されています。しかし、上腕血圧の左右差と動脈硬化や血管内皮機能、心筋虚血との関連についての詳細は明らかではありません。本研究では、当院に冠動脈疾患のスクリーニングや精査目的に来院した受診者を対象に、両側上腕血圧測定、動脈硬化、血管内皮機能、心筋虚血の指標となる臨床検査を同時期に施行します。これらの結果を統計学的に解析することにより、非侵襲的に繰り返し簡便に施行できるスクリーニング検査としての両側上腕血圧測定の有用性と必要性について検討することを目的としています。</p>		
 <p>小田 登(38歳) 広島大学病院循環器内科助教</p>	<p>植込み型デバイス使用患者の遠隔モニタリングを用いた心不全再入院予防手段の探求</p>	300
<p>近年、突然死を防ぐための植込み型除細動器や、歪んだ心臓の収縮を是正するための両心室ペースメーカーなどの、植込み型デバイスを使用している心不全患者さんが増加しています。これらのデバイスには、不整脈および心不全治療機能のみならず、様々な生体情報が自動的に記録されています。さらに、患者さんが在宅の状態でも医療者がデバイスに記録された情報を把握できる「遠隔モニタリングシステム」が他分野に先駆けて応用されています。本研究は、これらのデバイスに記録される各種生体情報を遠隔的に解析することで、心不全増悪の事前予測を目的とするものです。心不全増悪が予測可能となれば、心不全による入院率が下がり、医療費の削減にもつながることが期待されます。</p>		
 <p>加藤 尚子(32歳) 東京大学大学院医学系研究科循環器内科学 日本学術振興会特別研究員</p>	<p>慢性心不全増悪予防を目指した質の高い治療・ケアの均てん化のためのQuality Indicatorの開発</p>	500
<p>慢性心不全の増悪予防を目指した質の高い治療・ケアの均てん化のためには、患者アウトカムの向上に寄与する質指標(Quality Indicator)を確立する必要がある。また、慢性心不全の増悪予防のためには、Multidisciplinaryアプローチが必要不可欠であり、治療のみならず、患者教育などのケアを含めた多角的な指標の開発が求められる。そこで本研究では、本邦の心不全治療・ケアの質指標を開発し、治療・ケアの質を評価するとともに、質指標の改善のための具体策を提言することを目的に、多施設共同研究を実施することとした。本研究は、わが国の心不全疾病管理に関する新たな知見を提供し、心不全増悪予防を目指した質の高い治療・ケアの均てん化の一助となることを期待される。</p>		
 <p>神谷 健太郎(32歳) 北里大学病院心臓リハビリテーション室 理学療法士</p>	<p>下肢筋力の健康度は高齢循環器疾患患者の生命予後並びに機能予後を予測する</p>	500
<p>循環器疾患罹患患者の高齢化に伴い、筋力や平衡感覚の低下が日常生活や運動療法、疾病管理を行う上での妨げとなっています。最近では、心筋梗塞や心不全の罹患そのものによって、加齢による運動機能低下の約8倍もの運動機能障害が引き起こされることが明らかとなり、心臓病は2足歩行をも脅かす疾病であることが分かってきました。北里大学病院では2000年より心臓リハビリテーション室を開設し、定量的な運動機能評価とデータの蓄積を行ってきました。今回、これらのコホートを追跡調査し、運動機能と機能予後、生命予後との関連を明らかにすることによって、再発予防や介護予防に有用なリスクチャートの作成を目指します。</p>		

第37回 日本心臓財団 佐藤賞 佐野 元昭 講師が受賞

第76回 日本循環器学会学術集会にて



日本心臓財団佐藤賞は、当財団の故佐藤喜一郎初代会長を記念して設けられたもので、近年循環器領域で顕著な業績をあげ、今後もこの分野で中心的な役割を果たすことが期待される50歳未満の研究者1名に贈られるものです。日本循環器学会会長を委員長とする選考委員会において選考され、今回は慶應義塾大学医学部循環器内科の佐野元昭講師に決定しました。

第76回日本循環器学会学術集会(会長: 鄭忠和 鹿児島大学循環器・呼吸器・代謝内科学教授)会期中の3月17日に福岡サンパレスにて受賞式が行われ、当財団の矢崎義雄理事長より賞牌ならびに250万円が贈呈されました。研究課題は、「心血管系疾患の分子病態解明」です。

第36回 日本心臓財団 草野賞 金澤雅人 氏が受賞

第37回 日本脳卒中学会総会にて



日本心臓財団草野賞は、当財団の故草野義一初代理事長を記念して設けられたもので、この1年間に脳血管障害に関する学術雑誌に掲載された40歳未満の研究者の論文に対し贈られるものです。今回は新潟大学脳研究所臨床神経科学部門神経内科学分野の金澤雅人氏に決定しました。第37回日本脳卒中学会総会(会長: 佐々木富男 九州大学脳神経外科学教授)会期中の4月26日に福岡国際会議場にて授与式が行われ、賞牌ならびに50万円が贈呈されました。受賞論文は、「VEGFシグナル伝達の抑制はtPA療法後の出血合併症を抑制する」でした。

第27回 日本心臓財団 予防賞 児玉和紀 主席研究員が受賞

第48回 日循協総会にて



日本心臓財団予防賞は、地域社会に密着し、循環器疾患予防に永年貢献もしくは学術研究開発に功績のあった団体あるいは研究者を対象に贈られるものです。今回は公益財団法人放射線影響研究所の児玉和紀主席研究員が選ばれました。受賞研究は、「広島・長崎における循環器疾患疫学研究ならびにNI-HON-SAN研究と日本循環器病予防セミナーにおける若手研究者育成の推進」です。来る6月15日、第48回日本循環器管理研究協議会(日循協)総会(会長: 久代登志男 日本大学医学部教授)において授与式が行われ、賞牌ならびに50万円が贈られます。

第8回 日本心臓財団 小林太刀夫賞 茨城県立健康プラザ保健施策支援ツール開発普及事業グループが受賞

第48回 日循協総会にて

当財団では日本循環器管理研究協議会の協力を得て、同協議会初代理事長の名を冠した日本心臓財団小林太刀夫賞を授与しています。これは地域と密着して、循環器病を中心とした生活習慣病予防のために長年貢献し、生活習慣等の改善により疾病管理に実効を上げた活動、あるいは予防のための創意工夫により将来において疾病管理の実行が期待できる活動を展開中の保健師、看護師、栄養士の個人または団体に贈られるものです。その第8回には、「大規模コホート研究に基づいた保健施策支援ツールの開発と普及への取り組み」という受賞テーマで、茨城県立健康プラザ保健施策支援ツール開発普及事業グループが選ばれました。第27回日本心臓財団予防賞とともに、第48回日本循環器管理研究協議会(日循協)総会において授与され、賞牌ならびに50万円が贈られます。

心臓病・脳卒中と過労死

東京医科歯科大学名誉教授
労働保健審査会会長
平岡 昌和

TOICS

「過労死」とは医学的に定義された言葉ではなく、労働災害を扱う行政実務で使われる言葉です。業務（就労中の仕事）の過重から過労となり、脳卒中ないしは虚血性心臓病などを発症し死亡した場合に、この「過労死」という言葉が適用される場合があります。

労働者が仕事（業務）中に事故で負傷・死亡、業務が原因での病気を発症・死亡した場合には、労働者災害補償保険法（労災保険）により、被災労働者の傷病や障害の程度に応じた様々な補償が支給されます。ただし、それぞれの負傷や疾病・死亡が労災と認定されるためには業務との関連や事故の状況、疾病により、それぞれ認定基準が決められており、その基準を満たさないと労災とは認められません。

脳卒中や虚血性心臓病などは、動脈硬化が原因で発症する病気です。食事・喫煙などの生活習慣、肥満、遺伝素因などに加齢などの要因が複雑に関与して動脈硬化が進展・悪化して発症します。一般には、業務の過重や過労の蓄積がこれらの疾患の主な発症原因となるものではありません。

しかし、業務の過重とそれに伴う疲労の蓄積などが、動脈硬化の自然経過を超えて著しく増悪させ、脳卒中や虚血性心臓病などの疾患を発症させることがありうるとし

て、一定の条件を満たせば労災と認定されます。

労災の認定は、被災労働者が会社のある地区の労働基準監督署に労災の申請をします。そこで労災が認められず、不服がある場合には、都道府県の審査官に審査請求を行うことができます。そこでも労災が認められなかった場合には、労働保健審査会に再審査請求を行うことができます。労働保健審査会での決定が労災の最終判定となります。

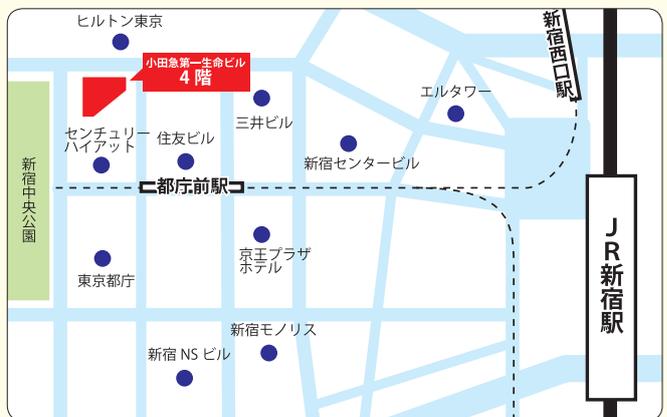
平成20年の1年間に、労働保険審査会に脳卒中ないしは虚血性心臓病等での労災の再審査請求があった60件を分析すると、その74%に当たる44件が、動脈硬化の危険因子を有していました。危険因子のうち高血圧が29件(66%)と最も多く、そのいずれの場合も医師の指導ないしは療養が指示されていたにもかかわらず、受診指導を無視ないしは受診して服薬を勧められても服薬しないか勝手に服薬を中止した例が大部分であり、1例では服薬は続けていましたがカルテの記録からはコントロール不良でした。

これらは心臓病・脳卒中の予防に高血圧のコントロールがいかに重要であるかを示すデータといえます。

日本心臓財団新事務所の会議室をご利用ください。

医療関係者の皆さんが気軽に利用できるよう、日本心臓財団では、会議室を無料提供しています。広さは43平方メートル。写真は12名の座席となっていますが、最大20名まで机と椅子で着席できます。

休日等も対応可能ですので、詳細は事務局までお尋ねください。



日本心臓財団事務局
東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 4階
電話：03-5324-0810

- ・JR「新宿駅」から徒歩10分
- ・東京メトロ丸ノ内線「西新宿駅」から徒歩5分
- ・都営大江戸線「都庁前駅」A7出口から徒歩1分

海外からの研究者に対する助成

日本心臓財団では循環器疾患の研究分野において ASEAN諸国等の研究者の来日に対し、東京海上日動火災保険(株)による海外研究者研修助成を実施しています。

- 1) 第76回日本循環器学会学術集会に参加発表
平成24年3月16日～18日 各10万円
マレーシア Hwee Ming Cheng氏
ネパール Prahlad Karki氏
トルコ Mustafa Erdal Beyter氏
- 2) 第10回国際留学生Young Investigator's Award
アジアから日本に留学している若手研究者を対象に、第76回日本循環器学会学術集会で発表
- 最優秀賞** Xhiaoxiang Yan氏 20万円
(慶應義塾大学医学部循環器内科:中国)
- 優秀賞** Flori Ratna Sari氏 10万円
(新潟薬科大学薬学臨床薬理学:インドネシア)
Lina Hu氏 10万円
(新潟薬科大学薬学臨床薬理学:インドネシア)
Nur Arfian氏 10万円
(神戸大学医学部循環器内科:インドネシア)

ご支援ありがとうございます

当財団へのご寄付

次の方からご寄付を頂戴しました。ここにご芳名を記して感謝の意を表します。(2012年3月～5月)

匿名		50,000円
小松 晴茂 様	高知県	100,000円
匿名		30,000円
(株)アクセル 様	東京都	1,000,000円
(株)東横イン 様	東京都	100,000円
細田 瑳一 様	中野区	3,000円
渡邊 武房 様	福島市	6,900円
村上 勝彦 様	金沢市	9,200円
匿名		30,000円
匿名		26,999円

♥ちいさなハートをつなぐ基金

佐久間 賢 様	新潟市	1,000円
井上 貴子 様	伊勢市	20,000円

♥AED普及事業

大川かおる 様	横浜市	1,000円
内藤 恭子 様	横浜市	2,000円

当財団をご支援下さる方

本年度もご支援をいただいた方のご芳名を掲載します。(2012年3月～5月)

井上 博 様	林 博史 様	室原 豊明 様
匿名 2名		

●心臓財団からのお願い●

～ご寄附ならびに賛助会ご加入～

日本心臓財団は、1970年設立以来、循環器病(心臓病・脳卒中・動脈硬化)を克服するために、研究の助成、予防啓発とその普及、さらに循環器病に関するメール相談などを行ってきました。その活動は、皆さまのご寄附により支えられています。今後の活動をご支援いただけますよう、なにとぞご協力のほどお願いいたします。

なお公益財団法人へのご寄附は所得税法上の控除対象になります。

○ 賛助会員 ○

財団の目的に賛同し、毎年ご寄附をいただく皆さまを賛助会員とさせていただきます。

- ・法人は年間一口5万円(一口以上)
- ・個人は年間一口1万円(一口以上)

○ 当財団へのご寄附 ○

当財団では、ご支援に対するご寄附を随時お受けしております。金額はおいくらでも結構です。

○ 小さなハートをつなぐ基金 ○

心臓病のお子様やご家族を支援するための基金を募っています。

○ AED と心肺蘇生普及基金 ○

心臓突然死を少しでも減らすため、誰もが簡単に覚えることのできるAEDと胸骨圧迫による救命講習を全国に拡げ、学校教育への導入を目指す活動に使用します。

お振り込み先

ゆうちょ銀行

一般振替口座 00140-3-173597

(〇一九(ゼロイチキユウ)店 当座 0173597)

三井住友銀行 丸ノ内支店 普通 0801474

三菱東京UFJ銀行 丸の内支店 普通 4025878

*ホームページより、インターネットを利用したクレジットカードによるご寄附も可能です。ご不明な点がある場合は事務局までお問い合わせください。

公益財団法人日本心臓財団 事務局

〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル4階

TEL 03-5324-0810 FAX 03-5324-0822

http://www.jhf.or.jp/